

お告げのマリア修道会



まごころ会

2025年2月

Tel.095-846-8300



QRコードから
アクセスして
下さい

『わたしは主のはしためです。
お言葉どおり、この身になりますように。』

日本二十六聖人殉教者

二月五日「二十六聖人殉教者の祝日」に、長崎教区南地区司祭団が主催する「連続ミサとゆるしの秘跡」が行われます。場所は、西坂の聖フィリッポ教会です。

京都から、ひと月かけて、西坂を目指して歩き続けた殉教者の歩みは、聖年のテーマである「希望の巡礼者」の歩みそのものだったと思います。聖年の大勅書「希望は欺かない」にこのように書いてあります。『希望は、信仰と愛とともに、キリスト者の生き方の本質を表す三つの「対神徳」をなしています。不可分なそれらのダイナミズムの中にあつて、希望は、信仰者の生き方の方向と目的を示す、いわば指南役です。ですから使徒パウロは、次のように招いています。「希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、ためまず祈りなさい」(ローマ12・12)。そうです。わたしたちは「希望に満ちあふれている」(ローマ15・13参照)べきです。それは、わたしたちが心に抱く信仰と愛を、説得力をもつて魅力的にあかすするためです。』

2025年 **2月5日** 聖年
二十六聖人殉教記念日



連続ミサとゆるしの秘跡

場所:聖フィリッポ教会 (西坂教会)

連続ミサ

9時・11時・13時

15時・17時・19時

主催:長崎教区南地区司祭団

「人の思いをはるかに超えて」梅木公子

四 再度の試練と新たな歩み

こうして苦難を乗り越えて、自活の道を歩き出したが、1941年第二次世界大戦勃発。そしてあの原爆、十字修道院と浦上養育院は壊滅、22名の会員と孤児たちが犠牲となった。神は浦上の地に、もう一度試練の時をお与えになった。

1945年8月15日戦争終結、平和が戻ったが、失ったものは多大であった。戦場に送った主任司祭の何名かは帰らぬ人となった。しかし、天皇の人間宣言、新憲法の下での信仰の自由は、教会を明るくした。社会福祉法が確立し、各共同体が出かけてきた福祉事業に国からの措置費を受けることになった。会員もそれなりの給料をいただけるようになり、生活費を得るための血のにじむような労働は緩和した。自分でやってきた養護施設、託児所は、児童福祉法に従って整備され、会員はこれに対応して学び始めた。戦後の新しい歩みが始まった。

五 統合への模索、実現



山口大司教様

1937年11月7日、早坂司教様に代わって、山口司教様が着座された。山口司教様は教区に散らばる共同体の統合を計画された。それは長崎教区のためでもあったが、何の保証もなしに、共同生活

↓裏面に続きます

まごころ会会員帰天

お祈りください



- ・カタリナ 丸田ハルエ様 楠原教会
- ・マリア 山下 二子様 三井楽教会
- ・ミカエル 磯辺 庄一様 三井楽教会
- ・マリア 椿山ユミ子様 三井楽教会

をしている会員に、正当な修道者の身分を与えるためでもあった。1947年、山口司教様の要請を受けて、里脇神父様(後の枢機卿)が統合に向けての調査をなさったが実現を見なかった。しばし調整の期間が必要だったのである。

1956年26の共同体が、司教様の呼びかけに応じ、ひとつの修道会として発足した。野原清師が指導司祭に任命され、本部の機能を果たすため、大浦天主堂境内内の旧司祭館を提

供していただき、本部と修練院を設立した。野原師は本部要員となる会員を自ら募集した。統合体には司教様自ら「聖婢姉妹会」と命名された。これはルカ福音書のお告げの場面から取られたもので「私は主の婢です。仰せの通りこの身になりますように」(ルカ一章38節)と言われたマリア様の心を会にいたただくためだった。司教様はこの命名にいたく満足されて、よく「良い名だろう」とおっしゃっていたとのことである。

この年の11月15日
統合に加わった共同体

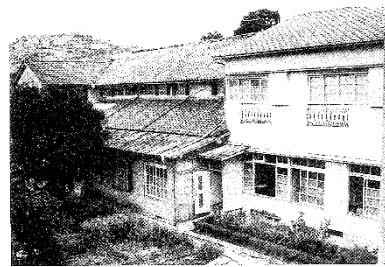


野原清神父様

から何名かずここに集まり、はじめての修練が開始された。野原師は自ら募集した会員や他の共同体の会員の中から指導的立場に立つ人を選ぶことを試みたが、幾多の困難があり、事実上、師が指導司祭兼修練長であった。師はまた在俗修道会を目指したようであるが、会員は既に共同生活をしていたから、それには無理があったようである。ともかくこうして4ヶ月の修練が済み、1957年3月15日22名が初めて誓願を宣立した。いみじく

も、それはあの信徒発見のサンタマリアのご像の前であった。こうして聖婢姉妹会は歩みだしたが、波風もあり、これを機に退会する人もいた。神の選びの時、そしてこの選びに目覚め、決断する時でもあった。

1959年長崎司教区、大司教区に昇格、1962年教区のカテキスタ養成のために本部に「聖母カテキスタ学院」が開設され、1965年に閉鎖されるまで、支部から派遣された会員がここで学んだ。



大浦天主堂境内内の旧司祭館
1956年「聖婢姉妹会」の本部
と修練院となった。

六 望まれる養成機関

1964年、山口大司教様は野原師に代えて、松永久次郎師(後の司教)を指導司祭に任命された。長くローマで勉強し、ローマで司祭に叙階されたばかりの松永師にとってこれは意外なことだったに違いない。いつか師がこのことを回想されてお話になったことを私は山口大司教様と松永師への深い感謝の念とともに忘れることができない。任命を受けて、松永師はご自分の気持ちを率直に述べられたらしい。その時司教様は、「あなたは私にこんなに大切に思っていることをそのように思うのか」とおっしゃり、師はその言葉に痛く心を打たれたとのことであった。野原師は奥浦修道院で行われた黙想会を最後に勉強のため、ローマに旅立たれた。